



TITLE:

はじめに

AUTHOR(S):

白山, 義久

---

CITATION:

白山, 義久. はじめに. 時計台対話集会 2010, 6

ISSUE DATE:

2010-03-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/176972>

RIGHT:

# はじめに



白山 義久

しらやま よしひさ

京都大学フィールド科学教育研究センター長

今、オーシャンズ(OCEANS)という映画の予告編を見させていただきました。この映画は私が関わっております「センサス オブ マリンライフ(CoML)」という世界的なプロジェクトで作りました。研究成果を一般の方々にどれだけ理解していただけるかは、科学者が今後考慮すべき重要なポイントであろうと思います。CoMLではそのような考えのもとに、この映画を作ったわけです。

これだけではなくて、今日こういうイベントがあると連絡したら、メッセージを送ってきました。ご覧いただいているようなものがすばやくできる、つまり映像とか画像とかを非常にうまく使うこと、これも今後科学者に必要な資質の一つであろうと最近ひしひしと感じております。

さて私は海の生態学を専門としています。日本は資源小国とよく言われますが、海を考慮に入れるとそうでもありません。日本は世界で六番目に広い排他的経済水域を持っています。あるいは、世界の排他的経済水域の二割が日本のもので、日本の持つている海は非常に広いと言うことです。その排他的経済水域には、鉱物資源がたくさんあります。有名なのはマンガン団塊ですが、そのほかにコバルト・リッチクラストとか金がたくさん含まれている熱水鉱床

などがあります。日本はこれから先、世界の金属資源の大国になろうとしていると言っても過言ではありません。

しかし、日本がもつと大切にすべき資源として「森林」があらうかと思えます。現在、日本の森林は、ほとんど木材積量が増えております。しかも国土に対する森林率は世界で二番目に高いものです。たくさん森林を持っていて、かつそこにある木材が年々増えているというのが現状です。

日本は古くから「木の文化」を持つております。インターネットサイトで調べますとスサノオノミコトが「こういうふうにも木を使いなさい」とおっしゃったとかいう話もあります。しかし、その非常に長い木の文化が、残念ながら、最近忘れ去られようとしていると思われる。その文化がもう一回復活すること、つまり木という資源を非常にたくさん持っている日本が、その資源を有効に使えるようになることは、非常に大きな社会的要請であり、今後の日本の豊かさの基になるだろうと考えております。

本日のシンポジウムのタイトルは「木文化創出」と名付けられておりますが、その心はそんなところにございます。日本の森林の経済的価値は、年間に七〇兆円にのぼるという日本学術会議のまとめた試算があります。日本の国家予算は四十四兆円借金をして、九〇兆円台と言いますから、ほぼ国家予算と同じぐらいの恵みを、日本の森林は与えてくれているということになります。これを利用しない手はありません。それこそがまさに「木文化」ということなのです。現在の日本社会は「木文化」を十分活用しているとは言えないと思えます。

本日は皆さんと一緒に、基となる森林をどうやって使えばよいか、「木文化」を再生するにはどうすればよいかということを考えていきたいと思えます。森林の経済的価値はヘクタール当たりで二百八十万円だそうです。このような価値がある日本の森林をこれからどうやって活用していくかを考えていきたいと思えます。どうかよろしく願っています。